

お品書き  
 [その巻] CODEレターVOL.14  
 [その式] プロジェクトNEWS

以上



# Letter

**2004.3.20 VOL.14**

CODE海外災害援助市民センター発行  
 〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10  
 TEL : 078-578-7744 FAX : 078-576-3693  
 e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>  
 郵便振替 : 00930-0-330579

## 関西NGO界の変遷

**理事 榎木 恵子**

(特活 関西NGO協議会事務局長)

昨年より、(特活)国際協力NGOセンター発行の「国際協力NGOダイレクトリー2004(仮)」の編集委員会が発足して、前回に引き続き、委員の一人として参加していました。現在使用されている2002年度のダイレクトリーには、全国の391団体が掲載されています。2004年度に関しても掲載数はほぼ同数と言えます。

毎回編集委員会ごとに新規掲載候補団体があり、掲載数が増加するように思われますが、それぞれの団体のダイレクトリー掲載への対応や活動状況などにより掲載数の変動が生じています。

この委員会には、(特活)名古屋NGOセンターと(特活)関西NGO協議会から1名づつ委員が参加しています。その理由としては、それぞれの地域でのNGOの活動情報を編集に活かすことです。

1996年に「NGO・外務省定期協議会」が設置されてから、定期協議、国際会議、イベント、国際協力関係の調査・研究等に、東京のNGOの意見だけでなく、地域NGOの意見を聞く傾向が現れてきました。

インターネットの目覚ましい発達の影響力もありますが、度々会合でNGO関係者が集まって協議することから、人を通して情報が共有されます。

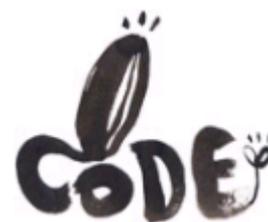
関西のNGOの活動の情報が全国に伝わり、全国のNGOの情報が関西にも伝わります。その課程は確実に拡大しています。そして情報の共有はネットワークの構築を促進し、新たな協働プログラムを開始させる原動力を生み出します。

日本政府によるNGO支援策として、外務省はジャバ

ン・プラットフォームを2000年8月に設置し、2002年度に「日本NGO無償資金協力」を開始しました。このNGO支援策の申請条件には、法人格を有する事と、特徴として「NGO緊急人道支援」を挙げ、～日本のNGOが迅速かつ機動的に活動を立ち上げられるように支援する資金協力～と外務省発行の冊子に説明されています。

このように国際協力NGOの緊急救援分野の活動は、市民においても公的機関においても注目度を上げています。

CODEは、阪神・淡路大震災で被災した人々が、お互いに協力することの必要性を認識して、NGOとして設立されました。特に市民、行政、他セクターとの連携を強みとして、今までのNGOの緊急救援活動とひと味違うプロジェクトを実施してきています。CODEをはじめとしたNGOにとってのこれからの課題として、地域性を活かした人と人とのつながりを基盤とした活動のあり方を強化するためには、次世代の担い手のさらなる研鑽が、災害救援の現場で求められているのではないのでしょうか。



## 記念講演会第2回報告

2月21日(土)JICA兵庫国際センターにて、「国際的な人道援助のあり方」と題したNPO法人格取得記念講演会の第2回を開催しました。講師には、NPO法人HuMA(災害人道医療支援会)理事長の鶴飼卓さんとジャパン・プラットフォームのイラク危機対応



講師の鶴飼HuMA理事長

応でアドミニストレーターとして現地でご活躍された築山直宏さんを講師にお迎えして「災害医療とCODEの役割」をテーマにパワーポイントを交えて約3時間の講演を行いました。

前半は、医師として阪神・淡路大震災のご経験はもちろんそれ以前より国際緊急援助隊としてご活躍されたご経験をお持ちの鶴飼さんがお話しされ、後半は築山さんのアドミニストレーターとして必要なことや実際にイラク危機対応でご経験された苦労話などを披露してくださいました。

その中で鶴飼さんは、医師という専門家の災害派遣において医師の役割が大切なのもちろんであるが、それらの活動を支えるロジスティシャンやアドミニストレーターの役割が活動を大きく左右し、その派遣人員が医師に対して少ないことを述べられました。そしてCODEの役割として、そのような人材を今後育てていってほしいと述べられました。

またこの講演録は、第1回目同様、後日出版予定となっております。

(以上 文責：事務局仲江川徹)

### シリーズ第5回

## CODEに携わる人々

シリーズ「CODEに携わる人々」第5回目は、翻訳ボランティアとして活動に携わっていただいている神戸大学2回生の曾田浩民さんです。

~~~~~

私は初めは事務局のボランティアとして、そして現在は、翻訳ボランティアのみなさんから送られてきた原稿の管理・コーディネート役としてCODEに携わらせて頂いています。

もともと、ボランティアとして活動に携わらせていただく契機となったCODEの方々との出会いは、約1年前になります。

テレビやニュースで地震・洪水などによって家族、家、全てを失ってしまった人々の様子を見て、何か自分にも出来ることはないか、いやむしろ、何かしなければならぬ、という思いがあったものの、その術がわからず、日々の生活の中でその思いが昇華してしまう・・・。おそらく多くの人々が、そういったニュースに心を痛め、何らかの形で貢献したいという思いを持ちつつも、その手段がわからない、というのが現実なのではないでしょうか。

そんなもどかしい思いを抱えていた時、CODEのスタッフの方々との出会い、そして、“これだ！”と思ったのです。

お金も、技術も何もない、ちっぽけな自分にも、出来ることがある。災害救助支援のため実際に災害現場へ赴き、活動を行っていらっしゃるスタッフの方々をサポートすることによって、間接的に自分も一活動に貢献できるという喜びを今感じています。

また翻訳コーディネーターという仕事を通し、翻訳ボランティアの方々とメールを交わすことによって、お互いの顔は見えないけれど、きっと自分と同じような思いを持っているであろう人々とのあたたかいつながりも感じる事が出来ます。ボランティアとして行き始めたはずのCODEから、逆に私がそれ以上の多くのものを、教え・与えられているのだと思います。

今後どんな形であれ、自分の出来る関わり方で、ずっとCODEの活動に携わっていただければと思います。

## これまでの活動記録2/18～3/17

- 2/21 中級編セミナー開催(講師：鶴飼卓/JICA兵庫国際センター)  
イラン報告・神戸フリースクール「こども人権フェスタ」  
(事務局斉藤)
- 2/26 イラン報告・神戸市立成徳小学校(村井理事)  
イラン・アフガニスタン派遣(~18日/事務局斉藤)
- 2/24 イラン報告・関西NGO協議会(事務局斉藤)
- 3/6 イラン・アフガニスタン派遣(~18日/村井理事)

## ありがとうございます。2/18～3/17

### 会員・寄付者ご芳名(以下順不同・敬称略)

#### 一般寄付

高木清(奈良県),上田敦子,神原佳予子(以上大阪府),岡田康男,三井さよ,三島宣彦(以上東京都)

#### 新規会員

##### ・正会員

個人：大江浩(神奈川県)

##### ・賛助会員

個人：小舟愛子,砂原孝雄,広川嘉宏(以上兵庫県)

編集・発行 CODE海外災害援助市民センター  
〒652-0801 兵庫県神戸市兵庫区中道通2丁目1番10号  
TEL：078-578-7744 FAX：078-576-3693  
e-mail info@code-jp.org URL <http://www.code-jp.org/>  
郵便振替：00930-0-330579

事務局では、不要になったハガキや書き損じハガキを集めています。これらは、郵便局で手数料を払えば、官製ハガキに交換していただけます。業務の中で使用する郵便代金の削減の一環に使用させていただきます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

# CODE プロジェクトニュース ダイジェスト版

CODE海外災害援助市民センター  
〒 652-0801 神戸市兵庫区中道通 2-1-10  
Tel: 078-578-7744 Fax: 078-576-3693  
e-mail: info@code-jp.org  
URL: http://www.code-jp.org/

CODEでは2月26日からイラン、アフガニスタンに村井理事、スタッフ斉藤容子を派遣しました。今回の派遣は、イランでは地震から2ヶ月後の現地の状況と支援の方向性を探るべく、カウンターパートの調査。アフガニスタンでは「ぶどうプロジェクト」の課題の一つとなっている、水の供給問題についての調査をメインに活動しました。以下、現地からのレポートを一部抜粋してお伝えいたします。

## イラン地震救援プロジェクト（2003年12月26日～）

CODEとしての2度目のイラン・バム調査が終わり、明日テヘランからアフガニスタン・カブールに向かいます。斉藤は「Message from KOBE」(NVNA D 日本災害救援ボランティアネットワーク、大阪大学チーム、CODE)として2月27日からイラン入りをしています。今のところは大変元気です。ただ被災地バムの日中はほんとに暑かったので、アフガニスタンも気温は変わらないような気がしますので、健康管理に気をつけないと暑さでバテるかも知れません。



バムに滞在中、被災地で地震発生直後からある「バフィア・テント」を訪れた時、まだ午前10時過ぎなのにテントの中は40度を超えようとしていました。テント生活はサソリや蛇対策が言われていましたが、(この問題も深刻ですが)むしろ暑さ対策を優先しなければ「人間ボイル」になってしまいそうです。10年前のKOBEを思い出しますが、このような状況の中でも、日本から行っているNGOやボランティアの若者が頑張っている姿をみるのが、一番の涼風になります。



### 炎天下での子どものケア

ところで日中のテント内は、軽く40度を超えるという暑さで厳しい生活を余儀なくされていますが、そんな中でもホッとさせる光景がチラホラ目に入ります。炎天下の屋外やテント内(一部ではコンテナ・ハウス仕様)ではありますが、子どものケアという活動です。どこでも同じ光景でしょうが、外国人が近寄っていくと子どもたちは集まってきます。



テントの子どもたち

厳しい状況の中での子どもの笑顔は、いつもながらこちらが癒されます。しかし、そんな中でも見るからにダメージを追っているという子どもの表情を目にするとつらいものがあります。ホームページにはもう少し詳細がアップされている筈ですが、CODEとしては支援の柱の一つになっている「子ども支援」を具体的に提案していきたいと思います。



ナツメヤシの木

震災後2ヶ月半が経ちましたが、「10年前の同じ時期、KOBEはどうだったかな?」と思い出しながらバムでの3日間を過ごしました。私も震災後2年間、ボランティア・キャンプではありましたが、テント生活を経験しましたのでどんどん気温が上がるこの状態で大変だろうなあと思えるところでも、でもそんな中でも、大きく期待が持てるのはバムの最大の主要産業である「デーツ(ナツメヤシ)」です。今が丁度受粉時期で、これから活気ができることを祈りたいと思っています。実際に「受粉」のシーンを見せて貰いましたが感動ものです。これからのバムの再建を祝うように群生しているナツメヤシがこの暑さの中でも生き生きとしている姿が私に希望を与えてくれます。ナツメヤシ産業のこと、カナートのことなども触れたいのですが、長くなりすぎますので後はホームページを参照して下さい。とりあえずイランを後にする直前のレポートです。

(文責：村井雅清)

## アフガニスタン救援プロジェクト（2002年7月17日～）

ここシャモリ平原にあるミール・パチャ・コット地域を訪れるのは今回で4度目だ。しかし、これまで経験しなかった、厳しい冬に終わりを告げ、新しい春を迎える間のほんの数週間という間の出来事はなんとすばらしいものかと痛感させられた。そもそもこの地域は、タリバーンと激しく戦争状態が続いたところなので、1年から2年避難していた農家の人たちが戻ってきて、手入れをし出したのが1年前のこの時期であった。丁度この地に対するCODEの支援が同時期であったことが、ベスト・タイミングとなり、ぶどう畑の再生に希望と勇気を与えたようだ。

ぶどう基金の支援を受けた農家の方々曰く「今年は収穫ができなかったけど、再生のための水資金に使ったり、労働力の雇用に使ったりして、おかげで次年度につなぐことができ、希望と働く意欲がでた」と喜びの声を聞くことができた。冬の間に凍てついた畑を興して丁寧に土をほぐし、また長く伸びた枝を払い、枝を絡ませ綺麗な輪になるように一本一本手入れをしていく姿は、大切な宝物を大事に扱うような様だ。

そして昨年12月訪問の時、緊急にSOSとして資金提供の相談を受けたのが、貴重な水供給システムである「カレズ」(地下水路)の清掃だった。壊れた17本のうち、とりあえず4本を修復できる資金を置いて帰り、今回その経緯をモニターすることが最大の仕事だったが、見事にその「カレズ」がよみがえりつつあることを目の当たりにし感激した。4人から5人が一チームで、各々一本ずつの竪抗を掘り、15㍍から40㍍の深さの地下を横につないでいく作業だ。汚い、きつい、危険という3Kの労働だが頑張っている。最高齢者で70歳くらいだ。私たちの訪問を受けて、顔をクシャクシャにして喜んでくれ、何度も泥々の手で握手をしてきた。感謝の気持ちを込め、私も15㍍の竪抗に入らせてもらった。「大変な仕事だが、伝統を継承して欲しい」と願った。中には15歳の少年?がいた。家族の中で稼ぎ手が彼しかないそうだ。カレズ清掃は、若い者があとをつがないと言われるが、この地域ではそうでもないようで、うれしくなった。

(文責：村井雅清)

## 募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて通信欄に「イラン地震支援」「アフガニスタン支援」とそれぞれ明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させて頂きます。

**口座番号: 00930 - 0 - 330579**

**加入者名: CODE**

CODEの活動は、様々な方のご支援に支えられて行われています。すべての皆様にご報告を直接させていただきたいのですが、時間的な制限もあり、ホームページやメーリングリストなどを通して広くご報告させていただいております。ご理解のほどよろしくお願い致します。メーリングリストへの参加をご希望の方は、ご遠慮なく事務局までお問い合わせ下さい。

当センターのホームページ[<http://www.code-jp.org/>](http://www.code-jp.org/)にも同様のものをアップしております。

(以上編集：事務局 福田典男)



ぶどう畑の開墾



カレズの清掃



カレズの中



カレズの中